

## 隠れ肥満大国、ベトナムの現状

石川 幸

現在、ベトナムでは肥満が社会問題になっています。アメリカの調査会社ニールセンの最近の調査では、ベトナム人のほぼ3分の1が当面の心配事として、「健康」を挙げています。ベトナムは東南アジア諸国の中では肥満率が低いとされていますが、世界保健機関（WHO）によると、2015年のベトナム人男性の肥満率は16%と2005年の3倍以上になり、女性も24%へ急増しました。さらに、ホーチミン市など主要都市の子供の肥満率は40%に上り、この10年間でほぼ10倍になりました。

### <考えられる主な理由>

#### 1つ目の理由は、食生活です。

ベトナムでも他国の例に漏れず、食の欧米化が起きています。日本でもお馴染みのケンタッキーフライドチキン（KFC）が1997年にベトナムに進出して以来、ロッテリア、ピザハットが次々と進出を果たし、ついに2014年にマクドナルドが進出しました。現在では、ホーチミン市内だけでもKFC59店、ロッテリア82店、ピザハット28店、マクドナルド15店を擁するまでにファストフード市場が拡大しました。

その他、コカ・コーラが1995年に発売開始され、現在では田舎の個人商店でさえ購入できるなど、ベトナムで市民権を得ています。また、ポテトチップスなどスナック菓子も子供を中心に人気で、ベトナムの会社だけでなく、アメリカ、韓国、日本、フィリピンなどの海外メーカーのお菓子も、一般的なスーパーマーケットで購入できます。

子供にとっては、コーラなど砂糖入りの炭酸飲料やスナック菓子が健康の妨げになりますが、大人にはもう1つアルコールという原因もあります。

2016年のベトナムでのビール消費量は、東南アジアで断トツの37億8,800万リットルで、世界的に見ても9位です。そのため、夜は街中至る所でビールを飲んでいる人を見ることができます。

#### 2つ目の理由は、運動不足です。

ベトナム人の移動手段はバイクが基本です。弊社のベトナム人社員も例に漏れず、90%以上がバイク通勤をしており、自宅の駐車場からバイクに乗り、会社の駐車場にバイクを停めるという生活を日々繰り返しています。一方、家の周りを散歩しようとしても、歩道が狭かったり、その歩道をバイクが我が物顔で走行したり、はっきりなしに途切れないバイクの量のため、横断歩道を渡るにも危険がいっぱいであり気軽に散歩しづらい現状があります。そのため、歩くことはあまりありません。

こうしたこともあり、今年からホーチミン市交通安全委員会では、市民に1日300m以上歩くよう呼びかける「徒歩運動」の開始に向けた計画の策定を進めています。このように1日300mも歩かない人が大半のようで、弊社のベトナム人社員曰く、「一番歩くのは大型ショッピングモールの中」という冗談とも本当ともつかないことを言っていました。

### <健康志向の高まり>

しかしながら、一部の中間層・富裕層を中心に健康志向が高まってきています。

現在、ホーチミンにあるジムの数は190軒（ベトナムの店舗検索サイトfoody調べ）を超えており、ジムの数だけで見ると広島県の92軒（出所：「平成26年経済センサス - 基礎調査（総務省統計局）H26年7月1日調査」）の2倍以上あります。日系のルネサンスも2014年から進出しており、ホーチミン市近郊のピンズー省と首都のハノイ市に1店舗ずつ構えています。

さらに、健康のためのサプリメントも人気を博しており、ダイエットサプリ、黒にんにく、コラーゲンドリンクなどが流行っていると、あるドラッグストアの店長が言っていました。その中で、日本製のサプリメントは薬局で数点見かけるだけで、シェアをまだ広げられていません。

ベトナムでは日本製に対し安心・安全のイメージがあるので、口にするサプリメントにはうってつけだと思います。このような健康に関する分野が、今後ますます成長していくとみられているので、ビジネスチャンスがあるかもしれません。